

第3章

小学校における キャリア教育

第1節 小学校におけるキャリア発達

1 各学年団におけるキャリア発達のとらえ方

次の表は、平成18年11月に文部科学省から出された「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き - 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために -」に示されているキャリア発達の特徴をまとめたものである。キャリア発達については、この表に基づき次のページで示した視点で理解することが大切である。

小学校段階におけるキャリア発達の特徴

低 学 年	中 学 年	高 学 年
学校への適応	友達づくり, 集団の結束力づくり	集団の中での役割の自覚, 中学校への心の準備
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事をする。 ・友達と仲良く遊び、助け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところを見つけるとともに、友達のよいところを認め、励まし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。 ・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな職業や生き方が分かる。 ・係や当番活動に積極的にかかわり、働くことの楽しさが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 ・自分に必要な情報を探す。 ・施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦勞が分かる。 ・学んだり体験したことと、生活や職業との関連を考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 ・作業の準備や片付けをする。 ・決められた時間や、生活のきまりを守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。 ・将来の夢や希望をもつ。 ・計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・仕事における役割の関連性や変化に気付く。 ・憧れとする職業をもち、今しなければならぬことを考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなもの、大切なものをもつ。 ・自分のことは自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事に対して責任をもち、見付けた課題を自分の力で解決しようとする。 ・将来の夢や希望をもち、実現を目指して努力しようとする。

キャリア発達について理解しておくべき視点

- ◆ 小学1年生では入学以前の段階（幼稚園など）との連携を踏まえて小1プロブレムへの対応が重視され、小学6年生では小学校卒業後の段階である中学校との連携を踏まえて、中1ギャップへの対応を考える必要がある。
- ◆ 人は社会における自己の立場に応じた役割を果たし、自分らしい生き方を実現しながら生活する中でキャリアを形成する。キャリア発達をとらえるためには、「社会における自己の立場」や発達段階において期待される役割を認識する必要がある。（p.8 参照）
- ◆ 低学年では主に次の3点，①小学校生活に適應する，②身の回りの事象への関心を高める，③自分の好きなことを見つけて伸び伸びと活動する，が挙げられている。あくまでも主な発達課題としてとらえて参考にするとともに，児童や地域の実態に応じて各学校ごとに設定することが望ましい。（p.111 参照）
- ◆ 中学年では主に次の2点，①友だちと協力して活動する中でかかわりを深める，②自分の持ち味を発揮し役割を自覚する，が挙げられている。自己に関する理解や自己の生活習慣にポイントを置いた低学年に対して，中学年では自己と他者や集団とのかかわりについての発達課題が中心となることに配慮する必要がある。（p.127 参照）
- ◆ 高学年では主に次の3点，①自分の役割や責任を果たし役立つ喜びを体得する，②集団の中で自己を生かす，③社会と自己とのかかわりから自らの夢や希望をふくらませる，が挙げられている。小学校においてリーダーシップを発揮する存在となる高学年では，集団において役割や責任を果たすことが強調され，さらに社会とのかかわりを重視し，各自の進路に夢や希望をもたせる段階であることを認識する必要がある。（p.147 参照）
- ◆ 担当する学年団のキャリア発達のみを視野に収めるのではなく，自分の属する学年団の前後の関係を理解することや，中学校の時期におけるキャリア発達との関連をとらえることなど，時系列的な関連性を理解し，系統的な指導を行うことができるようにすることが大切である。

2 各学校におけるキャリア発達の課題の具体的なとらえ方

各学校でキャリア発達課題を設定する際には，既成のマトリックスを参考にして検討する学校もあろう。しかし，大切なことは，児童や地域の実態に応じて次に挙げるような点に配慮し，各学校の現状に合ったキャリア発達の課題を設定することである。

- ①昨年度の学校評価の結果や児童の自己評価表などを参考にして，児童の実態を多面的に分析し整理する。
- ②目指す児童像や社会に求められる人間像と比較しながら，自校の児童の特徴や課題を分析し，そこから発達課題を考える。
- ③中心となる教員が（児童の実態に応じた）6年間を見通したマトリックスを作成し，それを基に教職員全員で，どの時期にどのような課題を設定することが適当かを話し合う。

次に挙げるのは，千葉市が作成したキャリア発達のマトリックスのモデル例である。

キャリア発達のマトリックスのモデル例

		千葉市キャリア教育モデルプラン (小学校版)			
		キャリア発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度と関連する教科・領域の活動例			
領域	能力	1, 2年	3, 4年	5, 6年	
人間関係形成能力	◆ 自己の理解能力	◎自分の好き(嫌い)なことをいえる 【国語】-ぼく・わたしの好きなもの 【生活】-とだちたくさんほしいな ◎お世話になった人に感謝する 【特活】-楽しい給食 【道徳】-2-(4)日頃世話になっている人に感謝する 【生活】-つくって出そう年がじょう今のわたし これからのわたし	◎自分のよいところを見つける 【特活】-自己紹介 ◎自分の生活を支えている身の回りの人に感謝する 【道徳】-2-(1)礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する 2-(4)生活を支えている人々や高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもつ 4-(4)先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力しあって楽しい学校を作る	◎自分の長所、短所に気づく 【道徳】-1-(6)自分の長所を知って短所をあらため長所を伸ばす ◎自分の良さをのびす方策を考える ◎話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする 【特活】-学級会(日常生活の諸問題) 【道徳】-2-(4)謙虚な気持ちをもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切に	
	◆ コミュニケーション能力	◎返事、挨拶を 【道徳】-2-(1)遣いを心掛ける ◎【ありがとう】 日常生活の中で 【特活】-6年生 ◎自分の考えを 【国語】-話したおもちゃはつひ ◎友達との仲良 【生活】-あそび 【道徳】-2-(3)休 【特活】-1年生 ◎【工】-クラス 【体育】-おに 【音楽】-みんな ◎身近な人々の積極的に関わる 【道徳】-4-(3)人々に親しんで 4-(4)郷土の文 【生活】-がっ 【国語】-めい	◆ 役割把握・認識能力 ◎家の手伝いや割り当てられた仕事を役割の必要性がわかる 【道徳】-4-(2)父母祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立つ喜びを知る。 1-(2)自分でやらなくてはならないことはしっかり行う	◆ 将来設計能力 ◎互いの役割や役割分担の必要性がわかる 【道徳】-4-(3)父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力しあって楽しい家庭をつくる ◎日常生活や学習と将来の生き方の関係に気づく ※様々な「体験活動」を通して	◎社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかる 【家庭】-楽しい時、近隣の人々との生活を考える、これからの家庭生活と社会 【理科】-人の生活と自然環境 【道徳】-1-(3)自由を大切にし、規律ある行動をする 4-(5)父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする ◎仕事における役割の関連性や変化に気づく 【家庭】-わたしと家庭生活
情報活用能力	◆ 情報収集・探索実践能力	◎身近で働く人味・関心をもつ 【生活】-大きくけん、まちたん ◎必要なことを 【生活】-か 【国語】-さげかもの図かんを作	◆ 計画実行能力 ◎作業の準備や片づけをする ◎決められた時間や約束を守ろうとする 【道徳】-4-(1)みんなが使うものを大切にし、約束や、決まりを守る【特活】-規則正しい生活 今年の抱負	◎将来の夢や希望をもつ 【道徳】-1-(5)正直に明るく元気で生活する ◎計画を立てることの必要性に気づき作業の手順がわかる ※【総合】他全教育活動 【算数】-見積もりや見通しの力を生かす各教育学習 ◎学習等の計画を立てる	◎将来のことを考えることの大切さがわかる 【道徳】-1-(5)真理を大切に生きて進んで新しいものを求め工夫して生活をより良くする 【総合】-見つけよう今の自分未来の自分 ◎あこがれとする職業をもち、今、しなければならないことを考える 【道徳】-1-(2)より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけない努力をする
	◆ 職業理解能力	◎係や当番の役割を知る 【生活】-まち 【特活】-掃除の ◎身近な仕事に 【生活】-まち	◆ 自己管理・選択能力 ◎自分の好きなもの、大切なものをもつ 【特活】-がんばっているね ◎して良いことと悪いことがあることがわかる 【道徳】-1-(3)良いことと悪いことの違いをし、良いと思うことを進んで行う ◎必要に応じてがんばることができる 【道徳】-1-(1)健康や安全に気を付け身のやまを大切に、身の回りを整えわがままをしない規則正しい生活をする規則正しい生活をする 【特活】-学級活動「安全」「規則正しい生活」「小遣いの使い方」など 【体育】-健康・安全に留意して運動をする	◎自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む 【総合】-課題設定(自分にとって必要な課題をとらえる) ◎してはいけないことがわかり、自制する 【道徳】-1-(2)よく考えて行動し、あやまちは素直に改める 1-(4)正しいと思うことは勇気をもって行う ◎場面や状況に応じ、自分のとるべき行動を考える 【道徳】-1-(1)自分でできること自分でやり、節度ある生活をする 【特活】-「食育に関すること」 【体育】-「保健」健康の大切さ	◎係活動など自分がやりたい係、やれそうな係を選ぶ 【特活】-学級会 ◎教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す ※全教育活動 ◎自分にとって価値ある価値あるものを選択する ◎場面や状況に応じ、適切な行動が出来る 【道徳】-1-(1)生活を振り返り、節度を守り節制に心掛ける 【体育】-「保険」けがや病気【食育に関すること】 【家庭】-「私と家庭生活」【生活時間や買い物の工夫】「これからの家庭生活と社会」
	◆ 生命尊重意識	◎明るく楽しく生活する 【道徳】-1-(4)嘘やごまかしをしないて素直にのびのびと生活する 2-(2)身近にいる若い高齢者に温かい心で終り親切にする 3-(2)生きること喜び、生命を大切にすることをもち 【たいせつなじぶん】 3-(3)美しいものにふれ、すがすがしい心をもつ 【国語】-読書単元「おがみ」等 【音楽】-みんななかよし、みんなであわせて 【体育】-ボールけりゲーム ◎自然に親しむ 【道徳】-3-(1)身近な自然に親しみ動物に優しい心で接する 【生活】-おおきくなあれ かっ 【国語】-土つてきもちいい	◎自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする 【特活】-3(4)年生になって 【道徳】-1-(3)自分でやろうと決めたことはねばり強くやり遂げる ◎自分の力で課題を解決しようとする ※【総合】他全教育活動	◎生命の尊さを感じる 【道徳】-2-(2)相手のことを思いやり親切にする 3-(2)生命の尊さ感じ取り、生命あるものを大切に 【国語】-読書単元「わすれられないおくりもの」「一つの花」等 【社会】-一人々の安全を守る工夫 ◎気高さを 【道徳】-3-(3)美しいものや気高いものに感動する心をもつ 【国語】-教科書美術館 ◎自然を大切に 【道徳】-3-(1)自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動物を大切に 【理科】-生物とその環境	◎自他の生命を大切に 【道徳】-3-(2)生命がけがけがえないものであることを知り自他の生命を尊重する。 【国語】-読書単元「大進いさんとがん」【川とノリオ】等 【社会】-「世界の中の日本、平和な国際社会の実現」 ◎異郷の念をもつ 【道徳】-3-(3)美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ 【国語】-教育美術館 ◎自然を大切にし、環境を守る 【道徳】-3-(1)自然の偉大さを知り、自然環境を大切に 【理科】-生物とその環境

(平成17年度修正版)

※本例は、小学校学習指導要領(平成10年12月告示, 15年12月一部改正)に準拠し、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」(平成14年11月, 国立教育政策研究所生徒指導研究センター)で示されている職業的発達段階, 発達課題, 能力などをもとに, 千葉市教育センターが千葉市キャリア教育モデルプランとして平成17年に作成したものである。

各学校でこのようなマトリックスにまとめる際には、次のような点に留意したい。

- 発達課題は、「資質・能力・態度」であることを意識し、「○○しようとする」「○○が分かる」のように状態を示す表現にする。
- できるだけ簡潔で具体的な表現にする。また、それぞれの内容に対して評価の視点を考えておくことが望まれる。
- それぞれのキャリア発達の課題の系統性が分かるように、1年生から6年生までの全体を見通せるように配列する。

第2節 教育課程とのかかわりにおけるキャリア教育

1 学力向上にキャリア教育の視点を生かす取組

教科指導にキャリア教育の視点を生かすことの重要性はこれまでも多く指摘されてきたが、その負担が大きいとの声も聞かれるところである。しかし、「キャリア教育の視点を生かす」ことには、教科の内容に即したキャリア教育を行うことにより学習の広がりや自己の生き方に関する子どもたちの考えの深まりを促すねらいがある。また、学習と将来の目標を関連付けて学習意欲を喚起することは、学習指導要領改訂のねらいにもつながっている。

また、例えば、一週間の教育活動を考えるときに、体験とそれを深める学習を関連付ける日課にしたり、各教科の特性と児童の実態を考えて学習意欲を喚起できるように組み合わせて日課表を作成したりすることも考えられる。特に小学校では、すべての教科を見渡しやすい学級担任の工夫次第で、学習効果を高めキャリア教育を効果的に推進することが可能である。

ここでは、キャリア教育を生かして学力向上を図ったある学校の取組例を基に、具体的な実践の在り方について考えてみよう。

(1) 各教科の授業や単元などのガイダンスを工夫し、目的意識を高める

授業のガイダンスでは、主に学習の目的、学習内容、学習の流れなどを説明して見通しをもたせ、各自の学習に対する意欲を高める工夫がなされている。このとき、学習の目的と将来の生活を関連付け、より身近な、そして将来の生活に必要な学習であることを感じ取らせ、学習意欲をさらに高めることが考えられる。また、ガイダンスの際にはワークシートを準備して教科書やノートに綴じ込ませ、適宜確認させることも大切である。次ページのワークシートはある小学校で社会科の授業の最初に行ったガイダンスの資料である。社会科を学ぶ目的を明確にさせ、学習の必要性を強く感じさせることで学習意欲を高める効果があった。また、教員も、指導の見通しをもつことができ、児童の興味・関心などを把握する機会となった。

特に、学習内容と将来の生活を関連付ける際には、学年単位で研修の時間をとり、各教科のどこに位置付けるかという観点で検討会を行うことで、教員自身の指導観の見直しを図ることもできる。ただし、単学級のような小規模校では、一人の担任がすべての教科を見直すことは難しいので、低学年・中学年・高学年などの学年のまとまりを生かすことや教頭・教務部の協力を得ることも考えられる。

平成〇年度 第6学年社会科ガイダンス

豊かな社会生活を送り、幸せになろう！！

学習日：平成〇年4月（ ）日

番 氏名

学習でめざすもの

1. 日本の歴史や伝統について学び、日本のよさや優れているところを感じ取ろう。
2. 国際社会と日本の政治・文化などの結びつきについて調べ、幸福生活について考えよう。
3. 社会的事象についての理解を深め、学んだ知識や技能を生かして生活を豊かにしよう。

時 期	学 習 内 容	主 な 活 動
4月	◎ガイダンス 1 日本の歴史	① 地域の歴史を振り返ろう ※社会科をどうして学習するの???
5月	(1) 「むら」から「くに」へ 米作りの開始から集団へ	② 「むら」はどうしてできるの？ 「くに」ってなに？
6月	(2) 聖武天皇と奈良の大仏	③ 「くに」をまとめるために必要なこと
7月	(3) 源頼朝と鎌倉幕府	④ 乱れた世の中をまとめるしくみ
8月	(4) 3人の武将と全国統一	⑤ 武力による争いを治めるために
9月	(5) 徳川家光と江戸幕府	⑥ 江戸幕府が長く続いた理由とは？
10月	(6) 江戸の文化をつくりあげた人々	⑦ 文化とはどんなもの？
11月	(7) 明治維新をつくりあげた人々	⑧ 日本の近代化の歩みから学ぶ
12月	(8) 世界に歩み出した日本	⑨ 「国力」を伸ばすポイント
1月	(9) 長く続いた戦争と人々の暮らし (10) 新しい日本、平和な日本へ	⑩ 戦争の意味とその結果から学ぶ ⑪ 日本の進むべき姿を考える ※私たちにできることは何か…？
2月	2 わたしたちの生活と政治	⑫ 政治ってなに？
3月	(1) わたしたちの願いを実現する政治	⑬ 憲法の役割と国民の義務 ※歴史と法律の関係を考えよう
4月	(2) わたしたちの暮らしと日本国憲法 ★ユニバーサルデザイン	⑭ ユニバーサルデザインから学ぶ福祉
5月	3 世界の中の日本	⑮ 国民としての在り方を考える
6月	(1) 日本と関係の深い国々 ☆ブラジル新聞 ★EUレポート	⑯ さまざまな国々とその結びつき ※日本との関係を調べる
7月	(2) 世界の平和と日本の役割	⑰ 国の特徴と人びとの暮らし ⑱ 世界の現状（平和・食料・自然）
8月		⑲ 日本と世界との関係
9月		⑳ 私たちの生活を見直そう

〈社会科に対するあなたの考え〉

.....

.....

.....

(2) 各教科の学習内容を吟味し、生活との関連を深める

例えば、生活科や理科の授業で地域の自然と植物の生育環境などに視点を当て、地域の環境を生かして生活する方法を調べさせたり、人として地域社会でどのように生活するべきかを考えさせたりする授業が考えられる。このような学習を意図的に設定することで、地域や社会で生活するために必要な資質・能力・態度を養い、情報を収集活用する能力や意思を決定する能力を伸ばすことにつながる。



地域の四季調べ（小学1年生）

異校種の段階に比べて、小学校においては、担任が日課表を作成する学校が多いので、このような学習をすべての教科の年間指導計画に効果的に位置付ける工夫がしやすい。

第4章の120ページには第2学年の生活科の実践例として「だいすき わたしたちのまち」、130ページには第3学年の総合的な学習の時間の実践例として「お店体験をしよう」、また、166ページには第6学年の家庭科の実践例として「地域とのつながりを広げよう」が示されている。学校の立地している地域の実態を生かした事例である。

(3) 職業に関することや人の生き方に関する内容を活用する

教科書を基に、職業や仕事に関係する内容や人の生き方に関する内容を取り上げること、学習のプロセスや社会生活における学習の意義などを考えさせ、学習に対する興味・関心を喚起させることができる。児童が学習する内容の意義や導き出されたプロセスを考えることは、学習の必要性を強く感じることもつながる。授業の視点を工夫するだけで、学習の広がりが期待できる。例えば、教科書に載っている人物の写真を話題にして分かりやすく解説することで、その学説や定義などがどのように導き出されたのかという興味を喚起することにつながり、その児童の将来の職業に影響を及ぼした事例も報告されている。それは、自主的に学習する意欲を高め、学ぶ目的を明確にもたせることで得られる効果である。

第4章の154ページには第5学年の道徳の時間の実践例として「希望をもって」、162ページには第6学年の国語科の実践例として「夢に向かって」が示されている。



2 道徳の時間にキャリア教育の視点を生かす取組

小学校学習指導要領解説道徳編の「第1章 総説 1 道徳教育改訂の要点」の(2)「第3章 道徳」についてのイ「内容」には次のように示されている。

- (ア)「第1学年及び第2学年」においては、新たな項目として4の(2)「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」を加えた。この段階から、児童が身近な集団の役に立つために働くという社会参画への意識を育てることを意図した項目であり、(以下省略)
- (イ)「第3学年及び第4学年」においては、新たな項目として、1の(5)「自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす」を加えた。児童が自己の生き方を大切に考え、多様な可能性を意識しながら自己のよさを実現するために意欲的に取り組んでいくことが重要であるとの考えを踏まえたものであり、・・・(中略)
- 4の(2)においては、「進んで働く」を「進んでみんなのために働く」と改め、働くことによる社会参画への意識を中学年なりに一層深められるようにした。(以下省略)
- (ウ)「第5学年及び第6学年」においては、・・・(中略)
- また、4の(3)の項目は、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす」とし、4の(4)の働くことの意義の理解や公共のために尽くすことなどに関連させて、社会参画への意欲や態度に関する内容項目としての理解をやすくした。

このように、今回の道徳教育の改訂では、キャリア教育と関連の深い内容が付加され、社会的な自立を図るために必要な資質・能力・態度として位置付けられている。

また、道徳の時間に取り扱う内容構成の考え方は今までと同じ4つの視点からとらえ、児童の発達の段階に応じて内容項目を分類・整理している。

「第1学年及び第2学年の内容」において

1 主として自分自身に関すること

- (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかり行う。

この内容項目においては、自己実現のために一生懸命に生きている人などに焦点を当て、前向きな自己の生き方についての自覚を深めさせたい。また、自分のなすべき仕事をきちんと行うことができたときの満足感や達成感を味わわせ、がんばることができた自分を大切にする気持ちを高めたい。この項目の学習を通して、自分で意思決定する能力の伸長も期待できる。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

- (3) 友達と仲よくし、助け合う。

この内容項目は、友達との信頼関係と友情及び助け合いの精神を育てることをねらいとしており、人間関係を形成する能力と深いかかわりがある。ここでは、日常の生活や学校行事などと結びつけて、友情のすばらしさを感じ取らせ、自分の交友関係を見つめ直す題材が考えられる。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

- (1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。

この内容項目では、生きることの根源となる生命尊重の心をはぐくむことをねらいとしている。栽培・飼育体験や季節の移ろいを実感する機会などを効果的にとらえ、命を慈しみ、共生していくことの意味を考える場を様々に設定する。自分を大切にし、他者をも大切に思う心をもった、生きることの意味を考えようとする子どもを育てたい。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。

この内容項目のねらいは、仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役立とうとする心をもった児童を育てることにある。まさにキャリア教育との関連の深い項目である。この解説文の中には次のような文章があることも注目したい。「働くことの意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとのつながりでとらえることは、将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観をはぐくむ上でも重要なことである。」

上記の内容項目は、「第3学年及び第4学年の内容」、「第5学年及び第6学年の内容」の同項目において、発達の段階に応じた内容になっている。これらを踏まえて道徳の時間の年間指導計画を見直すとともに、総合的な学習の時間や特別活動における体験と関連付けて、キャリア教育としての効果を高めたい。



ア 計画的・発展的に行う道徳の授業

「第1学年及び第2学年の内容」においては、新たな項目として4の(2)「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」が加わった。その体験的な活動の場として生活科での「お手伝い」や学級での係活動、当番活動がある。それらの指導時期や学校行事等との関連を見ながら、「道徳教育は、道徳の時間を要^{かなめ}として学校の教育活動全体を通じて行う」ために、道徳の時間の展開や教師の働きかけの工夫が求められる。

例えば、2年生の4月であれば学校生活にも慣れ、新しい学年になった喜びと相まって係活動や家庭でのお手伝いなどに意欲的に取り組むことができている。2か月近く経つと継続しにくい状態になったり、つい面倒に思ったりして困難なことを避けがちであろう。心のどこかではよくないことと理解していても、ついそのまま見過ごしてしまっている自分に気付いているが、なかなか変えることは難しい。このような時期に4の(2)の内容項目の指導を位置付け、自分と向き合う時間をもつことにする。

ここでの指導で大切にしたいのは、「働くことのよさを感じさせる」ことである。資料の登場人物の心の動きを追いながら、自分の「快」は周囲の人にとっても同じであることに気付かせ、面倒くさいと思うときに少しがんばってやり遂げることができる自分になろうという気持ちを高めていく。そして、自分がかんばることが周囲の人に役立ったり喜ばれたりするという体験や、よいと判断したことを自分から進んで行う体験へとつないで、「やりがい」や「役立つ自分への喜び」を味わわせることが大切である。他者に喜ばれることを素直にうれしいと感じられるこの時期の児童の感性に訴えて、進んで自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていくことが重要である。

イ 家庭との連携に学級便りを活用する

道徳の時間に学んだことを将来の実践につなげていくためには、家庭の協力が不可欠である。そのため、学級便りなどを通じて学習の様子や子どもの反応などを知らせることが多い。道徳の授業のねらいを保護者に分かりやすく伝えることができるように、書きぶりを工夫したり子どもの意見を紹介したりしていきたいものである。

学級便りは連絡事項の伝達だけでなく、担任の学級経営の方策にもなり得る。児童にどのようなことを考えさせたいのか、今後何を目指していくのか、また保護者への説明責任を果たす役割も担えるようにしたい。



きれいにすると自分もみんなも気持ちいい

第4章では、122ページには第2学年「がんばっているねわたしのしごと」、124ページには第2学年「働く楽しさ」、142ページには第4学年「自分の長所をのぼす」、154ページには第5学年「希望をもって」、156ページには第5学年「働くことの意義」の事例が示されている。

3 総合的な学習の時間にキャリア教育の視点を生かす取組

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編の「第2章 総合的な学習の時間の目標 第1節 目標の構成」の目標の(5)には「自己の生き方を考えることができるようにすること」が示され、次の三点にまとめられている。

- ①人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。
- ②自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。
- ③①と②を生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。

また、「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第2節 内容の取扱いの配慮事項」の(3)にはボランティア活動などの社会体験を例示している。ボランティア活動は、他者のために役立つことの喜びを体得できる機会であり、キャリア教育とも密接なかかわりがある。

さらに、解説にはキャリア教育で培いたい主な能力である他者や社会とのかかわりに関する能力、情報活用能力、意思決定する能力の



郷土の焼き物作りに学ぶ

育成に関連した内容が記載されており、総合的な学習の時間はキャリア教育を取り入れやすい学習といえる。

以下は、郷土の先人や身近な人に学び、生き方の学習につなげた事例である。

ア 地域のために尽くした偉人やその思いを受け継ぐ人々の生き方に学ぶ

事例Ⅰ「塩づくりで郷土を興した先人に学ぶ」

本学習では、願いをもってひたむきに努力する郷土の先人や地域の人たちの姿にふれる活動を通して、自分の夢に向かってひたむきに努力することのすばらしさに気付かせ、今の自分にできることを見直させたいと。すなわち、人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考え、社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることをねらいとしている。

そこで、地域に現存する塩づくりに関する史跡探検、町の塩作りに浜子として従事したお年寄りの体験談、豊富な塩を食文化につなげた先人の知恵と、それを後世に伝えようとする地域の方々の思いにふれていくように活動を展開する。それらを通して、労をいとわずに働くことの尊さ、仕事への誇りをもった人の強さを実感させ、前向きに生きることのすばらしさに気付かせていく。そのような意識の高まりの中で、ボランティア活動の実践の場を設定する。緑化活動やボランティアなど、自分で意思決定した活動を実行するように場の設定や支援を続けていく。それらの活動を通して、やりたいことをかなえるのは、今の自分ができることを積み重ねていく実践力であると気付かせたい。また、人に喜ばれることの心地よさやすがすがしさを実感させて自尊感情を高め、社会への参画意欲につないでいくようにしたい。

イ 働く家族の姿や思いに学び、働くことの喜びや大切さに気付く

事例Ⅱ「働く家族の思いや願いに学ぼう」

複雑多様化した現代の職業の中で、子どもたちが目にすることができる職業はごく一部に限られている。それなのに、子どもたちが世の中にあるたくさんの職業を知る機会には実際に職業を選択する時までにはほとんどないのが現状である。さらに、自分の親の仕事を理解している子どもや、働いているところを見たことがある子どもも少なくなっていると思われる。働く親や大人の後ろ姿を見ずに成長していく子どもたちは、何を手立てにして働くことを理解していくのであろう。そのように考えると、子どもたちにとって一番身近な家族から勤労観・職業観を学ぶ場を設定することは、重要なことである。

家族の仕事調べを通して、生きがいをもって働く家族の姿、向上心をもって努力したり勉強したりする家族の姿、行き詰まりや壁にぶつかって悩む家族の姿など、普段とは異なる家族の一面にふれることができる。子どもたちは、自分たちのために前向きに働く家族の思いを知り、初めて職業としての仕事の厳しさを意識していく。その根底には大切な家族への深い愛情があり、苦しいときには自分たちの存在が支えになっていることなど、家族ならではの職業観にふれさせ、家族の絆を再確認させたい。働く家族への尊敬と感謝の気持ちを高め、家族から生き方を学ぼうとする学習により、その後の成長につれて自分もまた壁に突き当たったとき、支えてくれる家族の存在をよりどころにすることができる。



「父親の働く姿」に学ぶ

これらの事例では、身近で働く人や仕事に触れ合うことを通して、自分の仕事に誇りを持ち、生きがいを感じながら取り組んでいる人々の思いにふれることができる。そして、自分の将来の夢や職業についてどんな力が必要なのか自ら気づき、行動を変容させていくきっかけとなることを願い、さらに現実的な勤労観・職業観が子どもたちの心と体に生まれてくることをねらいとしている。

キャリア教育をめぐる誤解で多いのは、働くことに関する体験学習の実施のみをもってキャリア教育であるととらえることである。体験学習をきっかけにして子どもたちが何に気づき、何を考えていくのかを支援していくことが大切である。そのためにも、2章で述べたように学校の特色を打ち出した全体計画の作成が重要であり、その目標に沿った事前・事後の学習活動の展開や体験活動の場の設定が不可欠である。

また、学習を通して子どもたちが学んだことを把握し、次の活動につなぐためには、ノート・ワークシート・ポートフォリオなどの表現物を見取り、個の状況を正しくとらえておくことが必要である。総合的な学習の時間では全体の課題に基づき個々の課題意識に沿った個別活動を行うことも少なくないが、その後の報告会などにおいては学んだことを共有し、共通性の発見や一般化など協同して成果を導いた後、自己の学びを再構築させていく。さらに、学年末や卒業前には全体や個の学習を振り返る場をもち、凝縮ポートフォリオの製作やビデオ作成をすることも有効である。それらの表現物は、中学校でのキャリア教育の学習資料として活用することもできる。

今回の小学校学習指導要領の改訂では、学習形態の工夫の一つに異年齢集団での学習が挙げられている。特に小規模校などでは、複数学年で総合的な学習の時間に取り組む場合が考えられるであろう。その場合は、それぞれの学年の目標に基づいた個人課題の設定が大切である。異年齢集団の中で自己の役割意識を考えたり、相手に応じたかかわり方を学んだりすることは、キャリア教育で重視する自分で意思決定する能力や他者や社会とのかかわりを深める能力の育成につながる。

第4章では、160ページには第5学年「人生の先輩から学ぼう」の事例が示されている。

4 特別活動にキャリア教育の視点を生かす取組

小学校学習指導要領解説特別活動編の「第2章特別活動の目標 第1節の1特別活動の目標」には、(1)として「望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成」で人間関係の形成、(3)として「社会的な資質の育成」で社会性の育成、(5)として「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」で自己の生き方についての認識を深めることが明記されている。また、同章第2節4(4)には、「特別活動は、望ましい勤労観・職業観を育成したり、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるようにしたりするなど、キャリア教育としての役割も有している。」と記



地元の川でのカヌー体験

されている。

また、特別活動の改訂の要点としては、よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成を特に重視し、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動を一層充実することが挙げられている。このような集団活動を通して、キャリア教育で求める能力と考えている人間関係を形成する能力や自分で意思決定する能力を育成することが期待される。

例えば学級活動では、共通事項の(1)イ「学級内の組織づくりや仕事の分担処理」や(2)エ「清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解」がキャリア教育との関連が深い。学級という小集団において、仕事や役割を分担して組織的に活動することの大切さや合



季節ごとに行う花の苗の植替

理性を体験するとともに、各自が責任を果たすことの意味について理解を深めることができる。また、働くことで得られる満足感や集団における所属感を体感することは、勤労意欲を高めることにつながる。さらに、学級活動は、話し合い活動を通して人間関係を形成したり、様々な意見を基に適切に判断して他者とのかかわりを考えながら意思決定する能力を養ったりする格好の場である。

児童会活動やクラブ活動では、学級とは違った異年齢の集団における多様な人間との触れ合いの場を生かして、幅広い人間関係を形成する機会になる。また、一人一人の集団における役割分担を明確にし、各々に責任を持たせて活動させ、その成果を称賛することで達成感や満足感を味あわせることができる。このような異年齢の集団における活動には、自治的・自発的な活動を促し、社会性を高める効果が期待できる。

学校行事では、(4)遠足・集団宿泊的行事として、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」が明記され、人間関係を形成する能力や自己の役割認識の能力を養う効果が考えられる。さらに、(5)勤労生産・奉仕的行事としては、「勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと」とされており、勤労観を形成することが期待できる。このようになキャリア教育としての効果を上げるためには、集団における活動が有効である。

① 学級活動で人間関係形成の深化を図る取組

p.90～91に示した事例は、学級活動における意見交換をイントラネットを活用して行ったものである。この方策により、児童一人一人が自分の意見を発信するだけでなく、友達の意見を手軽に確認することもできた。また、データが記録されるため後からの確認も容易であり、学



パソコン室で学習している様子

級全体の意見を集約する際にも便利であったと報告されている。

② クラブ活動に地域の方や保護者の参加を促す取組

異年齢集団による主体的な活動を重視しているクラブ活動であるが、職員の構成や予算の問題などから児童の要望に応じた活動を十分に行うことが難しくなっている学校も多い。しかし、地域の教育力を生かすという視点や地域交流の視点からも、積極的に外部講師を依頼して活動する方法も考えられる。児童が外部の方と会話を通して積極的にかかわりながら、保護者以外の大人との交わりにより社会性を高めることにつながる。また、多様な人とのかかわりを通して人間関係を形成することの大切さを学ぶ機会にもなる。



三世代でのお手玉づくり